

令和3年6月26日

東京保育専門学校
校長 松本 勲 武 殿

東京保育専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①野上 秀子（東京都私立幼稚園連合会理事、私立久我山幼稚園園長）
- ②浜口 順子（お茶の水女子大学文教育学部人間社会学科教授）
- ③加藤 路子（公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会事務局長）
- ④山本 祥子（元 私立れんげ上北台保育園副園長、現 れんげ武蔵村山保育園副園長、本校卒業生）
- ⑤松浦 栄子（私立サンタ・セシリア幼稚園園長）
- ⑥竹内 嘉美（保育科1部在学学生保証人（保護者））
- ⑦中嶋 早苗（保育科2部在学学生保証人（保護者））
- ⑦横田 純二（横田公認会計士・税理士事務所所長）
- ⑧大沼 康（株式会社矢島工務店代表取締役、東京商工会議所杉並支部地域振興委員会高円寺ブロック 副ブロック長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 令和2年12月11日（オンライン会議）
第2回委員会 令和3年3月24日（オンライン会議）

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

I 重点目標について

1 重点目標について

重点目標に掲げた 5 項目について、コロナ禍の中でも確実に推進が必要な内容であり、堅実な目標である。コロナ対策のための様々なイレギュラー対応と、恒常的な学校運営向上の取り組みであるこれらの重点目標達成という 2 つのチャレンジがあり、両立してきたことを高く評価したい。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・大変な時期ながら、全ての学生について校内演習に振り替えずに現場実習を終えることができたのは、日ごろの学校と実習園との関係を築いてきたからこそである。実習園の協力なくして達成できないことではあるが、学校側の努力を自負して、もっと正当に自己評価しても良い。
- ・ICT 環境整備は、主に当校学生の環境についてのことだと思うが、それだけではなく、実習園や非常勤講師、また地域との連絡や連携、交流を図る上でももはや必須になっている。そこで、もっと広い意味で ICT 環境整備の必要性、目的を捉えて、積極的に活用する意識を持ってほしい。
- ・対面授業の利点が再認識されたということは理解できるが、リモートのほうが有効に働く授業の場面もあるのではないかと。対面とリモートの両面を相互に磨き上げていくことで、より良い授業になっていくのではないかと思う。また、学校に来にくく（精神的な面で）なっていた学生が、リモート授業を介して少しずつ戻ってこられるようになったという例も他機関では出ていて、教員や学生が意識しないところでの隠れた効果も考えられるので、今後もリモート活用方法については引き続き検討してほしい。
- ・AIgrow の導入について、職業適性を測るためのスクリーニングテストのようなものだと思うが、それを参考指標として学校が活用しても問題ないレベルの妥当性が検証されているものなのか疑問がある。他校への導入実績等も含めて確認した上で活用を検討してほしい。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

建学の精神、教育理念を明確にしており、それに基づく方針や目標設定があり、目標達成のために、堅実な取り組みが行われている。また、コロナ禍の中で様々な困難があったと推察するが、その中でも、ふれずに目標達成への取り組みが行われていたことを、高く評価する。また、いくつか課題と感じられる部分もあるので、令和3年度以降に取り組んでいただきたい。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・コロナ禍の状況の中で、最大限の努力をしてきたということが伝わってきて、まずは学校としての対応に敬意を表したい。神父様やシスターの講話が、学生にとっても貴重なものとなったという振り返りを聞き、こういう時にこそ宗教をバックグラウンドに持つ学校にとって、その信仰や信念という軸が学生や学校にとって大きな支えになるということを感じた。
- ・保育現場のニーズへ対応していくことは重要だが、現場ニーズを情報として収集はしながらも、実際にどの程度対応していくかについては、学校の教育理念も踏まえて考えていくことが大切である。実習先からの情報収集が主になると思うが、実習受け入れには感謝しつつも、できるだけ対等な立場でニーズへの対応方針などについて意見交換や相談ができる、実習園との関係性を築いていくことが必要である
- ・校外セミナーの重要性をとて高く自己評価していたことについて、教育理念の浸透や学生の交友関係の構築に寄与しているということは理解できた。一方、退学者、休学者の抑制を目指す上では、セミナー以外にも必要な要素がないかということは、もっと多面的な視点で分析をしてほしい。
- ・卒業生や社会人に対するeラーニング講座の開設について、指導大学であるお茶の水女子大学でも行っているので、意見交換などをしながら相互に講座内容を充実させる取り組みを行っていければ理想的である。

2 学校運営

昨年度の運営状況を踏まえ、より良い学校運営のため方針、事業計画が組まれている。運営方針は、全教職員に共有され、一体となって学校運営を進めていく体制がとられている。コロナ禍の中で、これらの体制が整っていることによって、学校運営に大きな支障をきたすことなく教育環境を維持できたことは評価に値する。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・コロナ禍の中でICTの活用が急速に広がっていったが、当校では以前からICT機器活用への準備を進めていて、その土台があったからこそ、オンライン授業も含めた今年度の運営ができたと考える。また、図書館の電子化が完了したことや学籍管理システム「SchoolLeader」、学生募集管理システム「EVO」等活用が進んできており、円滑な学校運営に貢献している。
- ・図書館の電子管理化が完了したにも関わらず、活用が進んでいないという課題について、主な要因は把握しているとのことなので、早期に改善を図ってほしい。
- ・今年度から教職員の業績評価の方法を改定し、年齢給よりも評価実績を反映できる職能給の昇給割合を増やすことにしたことは、業績評価の面では良い方向性である。一方、業績評価というのはその評価の客観性や妥当性の面で、どこの法人でも苦勞しているところがあり、年齢給と職能給のバランスには十分な配慮や検証をしてほしい。

3 教育活動

理念・目的・育成人材像に沿って教育課程の編成が行われ、シラバスや履修カルテなどを活用し、計画的な教育活動が行われている。また、専門学校として、職業能力の獲得に根差した、実践知の修得を重んじた教育内容が組み立てられており、特色のあるものとなっている。コロナ禍の中で、通常と異なる授業形態や実習期間の変更があったが、柔軟に対応して乗り切った点は高く評価する。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・年間を通してミサができなかったのは仕方がないが、神父様やシスターのお話を聞く機会が授業内であったのは良かった。特に卒業生のシスターの講話は、同じ保育者を目指す学生にとって本当に良い刺激になったと思う。
- ・コロナ禍の中の授業運営で、オンライン授業の実施ができたことや感染症対策をしながらのグループワークにも取り組めたのは、学びの充実の面で良かった。一方、保育現場はあくまで人対人のコミュニケーションの場であるので、コロナ禍の中でも、友人づくりや直接的な対人コミュニケーションの機会や行事を検討いただき、引き続き学生の生活環境改善に取り組んでいただきたい。
- ・この状況の中で、全員が実習に行けたということはすばらしい。ただ、コロナ禍の影響で、実習日程が卒業間際になってしまった学生について、卒業が迫っているという事情があるために、学生自身がじっくりと実習に向き合う気持ちの余裕や姿勢がやや薄れてしまっている様子が見受けられたところがあり、そのあたりは今後の課題として取り組んでほしい。

4 学修成果

就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価等からその学修成果は高く評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・今年度も就職希望者の就職率が100%というのはとても良い結果である。
- ・現状は、特に保育所への就職については、待機児童問題のために保育人材が不足しているが、今後は徐々に待機児童が解消していくと見込まれている。将来的には保育所の数も減少していくことが予測されるので、そこに向けて就職活動はどう変わっていくのか、今からの準備が大切である。
- ・現状、当校は幼稚園への就職者数が少ないが、前述の保育人材の需給状況も踏まえ、就職先施設種別の就職割合について将来的な予測も検討しておく必要がある。幼稚園、認定こども園への就職が増えていく可能性も含めて、今後の業界動向をしっかりと掴んでいってほしい。

5 学生支援

学生への支援体制として、就職支援や学校生活上のサポート体制、学生相談の仕組み、経済的支援の制度が充実しており、評価できる。コロナ禍における支援活動においては、柔軟な対応が評価できる部分とコロナ禍特有の課題もあり、今後改善を目指してほしい。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・ コロナ禍の中ではあったが、現場実習に向けて園との日程調整や実習事前指導、また PCR 検査対応や学生の不安に対するサポートなど柔軟な支援活動があり、大きな問題もなく現場実習を終えることができた。
- ・ 2部の学生は朝から仕事、夕方からは学校と、とても忙しい生活を送っている。その中で体調や精神的なバランスを崩したりすることもあり、依然として保護者のフォローが必要な場面がある。このコロナ禍の中、特に地方出身で一人暮らしをしている学生については、直接保護者からの支援を受けられない分、学年担当の教員や心理士にフォローをしていただきながら、学業を続けていける環境を今年度と同様に維持していただきたいと思う。
- ・ 実習オリエンテーションの日時が授業と重なった際に、授業が公欠とならず欠席となるという出欠の扱いについて、保護者から「厳しいのではないか？」との声が出た。コロナ感染症の影響も踏まえ、実習園と学生との日程調整のやり取りを確認した上で、授業とオリエンテーションが重なる場合は、その都度公欠か欠席か判断をしているということだが、ちょっとした風邪症状や体調の異変でも大事をとって休まなければならない状況なので、例年の扱いと分けて、もう少し緩和的な対応を検討することも必要。

6 教育環境

教育環境として、現場実習授業の重要性を重んじており、コロナ禍の今年度においても、実習園との日程調整や感染症対策等を相談、連携しながらすべての実習を実地で実施しており、評価できる。また、施設・設備面の環境整備については、年次計画を立てながら進めており、老朽化にともなう改修や ICT 環境整備等に取り組み、評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・ノート PC の配備などの ICT 機器環境の整備、また老朽化に伴う施設の改修や男子学生用の施設整備も進んできており、計画的な整備に取り組んでいる。学校の財務状況を考えれば、大変な面があると思うが、学生にとってはいろいろな教育環境を利用できるのは良い学びにつながっていくので、引き続きバランスを見ながら取り組んでほしい。

7 学生の募集と受入れ

2021 年度入学生の状況について、コロナ禍の中での活動であったが、1 部、2 部の総計では前年度と同程度の出願者を確保したという点は、評価できる。総定員の確保は毎年目標となっているが、今年度も未達となり、さらなる工夫が必要である。事実に基づく広報活動、適正な入試制度の運用等については、例年通りではあるが、しっかりと実施できており評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・昨年 2 月頃からコロナ禍の中での活動になってしまい、オープンキャンパス等への来校者数が減少する状況で、出願人数が減らなかったのは広報活動の努力の結果である。
- ・コロナ禍の中で、ネット環境を使つての広報活動の工夫がさらに必要になってきていると思う。高校側でも GIGA スクール構想が加速度的に進んできており、近いうちに生徒 1 人に 1 台のタブレットが配布される状況になる。生徒側の環境も変わっていくので、それも踏まえて対策を検討してほしい。

8 財 務

収入増加、経費節減の効果で収支改善は進んできており、評価できる。中期計画の策定は途上であるが、経理システムの導入から 2 期目を終え、予算計画や予算執行管理について材料は整っている。財務基盤の安定のためにも、収支改善の傾向を継続できるよう、財務分析とその活用に取り組む必要がある。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・自己評価報告書について、記載内容が昨年度と同じになっている個所が散見される。毎年大きな変化がない部分もあるのかもしれないが、今年度取り組んだことや、内容を更新すべきことは漏らさず記載してほしい。
- ・各小項目の記載について、一つの項目に複数の取り組み内容が含まれる場合は、評価の観点となるア（目標）とイ（現状）とウ（課題）の関連性を明確にするため、一つの文章の中で記載するのではなく、内容ごとに附番するなどして分けて記載してほしい。
- ・取り組んだ内容については、経年による業務改善の評価ができるよう、時系列がわかるように記載することを心掛けてほしい。
- ・経理システムを導入してすでに 2 年経つので、予算管理や経理の月次報告を「する」ということだけでなく、そこから発展させて、学校運営の中でどのように活用していくのか、その活用方針を考える時期に来ている。特に事業計画と予算管理の関連性については留意する必要がある。
- ・年間予算を月次予算まで落とし込みをして、月次ベースで予実の比較ができるようにし、その上で四半期に 1 回は事業計画推進会議で経理状況の確認をするなど、経営層が財務状況を把握し、経営判断に生かすよう取り組みが必要。
- ・収支改善については進んできている。学童保育や e ラーニング講習など、新たな収入源を模索する動きは非常に良いことなので、継続してほしい。併設の幼稚園でも同様に検討をして、学園全体として考えることが必要。

9 法令等の遵守

関係法令に関する最新の情報を把握し、法令遵守の観点から適切な学校運営が行われている。一方、一昨年度からの継続課題となっている、関係法令を根拠とした、校内の諸規程再整備について、なかなか進んでいない。昨年度から若干の進捗があったことは評価できるが、複数年かけて行っていく整備項目について具体的に計画をたてて進めていくよう取り組む必要がある。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・膨大な法令関係資料の中から、少しずつ整備を進めていくということだが、整備の優先順位付けについて、具体的な項目、対応予定時期を計画して進捗を図る必要がある。

10 社会貢献・地域貢献

学校としての地域貢献の観点から、また社会貢献・地域貢献の意識を持った保育者を養成するという観点から、例年ボランティア活動や地域住民、社会人に向けた公開講座などを開講してきたが、今年度はコロナ感染症の影響により実施できていない。このような状況なので評価のしようがないが、感染症が収束し、来年度以降に活動が再開されることを期待する。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・地域貢献、社会貢献、ボランティア活動については、コロナ禍の中では、やはり実施できなくても仕方ないものであり、コロナ感染症対策を考えれば、やらないことがむしろ正解である。
- ・今後の活動について実施時期を検討するとなっているが、このような先の見えない状況の中では、その実施のための指針を示すことすら難しい。校外活動については、感染するリスクと感染を広げるリスクの両方を高める可能性があるため、具体的な検討はこれらのリスクがある程度低くなった判断できる状況になってからにする必要がある。